

## 【坊ちゃん劇場】

## ヒアリング票

## 1. 劇場、音楽堂等の運営方針の明確化とそれに沿った事業の実施について

(1) 劇場、音楽堂等の運営にあたっては、運営方針(※)を明確化し、それに沿って事業を実施することが望ましいと考えますが、貴劇場においては運営方針をどのように定め、どのような内容で取り組まれていますか。また、その運営方針をどのような方法で県民や市民に伝えていきますか(例：ワークショップの開催など)。

※「運営方針」とは、例えば、世界に優れた日本の芸術作品を発信する拠点とすることや、全ての市民が日常的に実演芸術に触れられる機会を提供すること、子どもたちに本物の文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供することなどといった、各劇場、音楽堂等の目指すべき方向性や理念、使命を定めたものであって、事業計画等のベースとなる運営についての基本的考え方を指します(運営方針とあわせて、事業計画等の現物もご提供ください)。

「坊っちゃん劇場」は地域の舞台芸術の創造発信拠点として愛媛県はもとより四国や瀬戸内圏の歴史・伝統文化を表現し地域文化芸術の振興を図ると共に、地元の皆様はもとより観光客の皆様や成長期にある多感な子供たちに生の舞台芸術を鑑賞する機会を提供することを目的として平成18年4月に設立しました。ゆたかな想像力を育み魅力のある街づくりを目指します。

(2) 劇場、音楽堂等における運営方針の明確化を促進するにあたり、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

特にありません。

## 2. 専門的な能力を有する人材の養成及び確保(配置)について

## 【専門人材の配置】

(1) 劇場、音楽堂等が十分に機能を発揮するためには、それぞれの設置目的や事業等に応じて、専門的な能力を有する人材(専門人材)を確保することが重要であると考えますが、現在、貴劇場にはどのような専門人材が配置されていますか。

制作者：自主制作の作品の企画、立案、スタッフの選定までが行う制作者  
技術者：舞台監督、大道具、音響、照明等の専門技術者  
経営者：マネジメント、マーケティング、ターゲットングのできる人材

実演家：地元出身者を中心に数名のコミュニケーション力アップを目的としたワークショップの講師を務める事の出来る役者を配置している。

営業スタッフ：劇場営業担当者を6名配置

名誉館長にジェームス三木氏、名誉顧問に前愛媛県知事、元日本芸術文化振興会理事長の加戸守行氏に就任頂き、俯瞰的視点からアドバイスを頂いている。

(2) 現在、貴劇場において、専門人材の配置に関し、工夫されていることがあれば、記載してください。(採用形態、任期、専門分野、人材の発掘等)

当館におきましても、よりレベルの高い専門人材の適正な配置を行いたいと考えているが、現実には配置に要する費用の問題で、社内での熟練者の活用や若手の育成に留まっている。

現在元役者2名と契約し、演出補助や営業担当として配置している。

(3) 現在、貴劇場が抱えている課題を解決するために必要な専門人材はどのようなものだと考えますか。(複数回答可)

(例：地域のニーズ把握のため→地域文化コーディネーター、  
公演の企画(買取)のため→アートマネジメント人材、  
劇場経営のため→外部資金獲得担当の人材 等)

最も大きな課題は、事業を継続するための安定した経営の仕組み作りです  
劇場経営安定化の為にファンレイザー

集客力向上の為にアーツマーケティングの専門家

舞台レベルの維持と向上の為に、歌唱、舞踊及び演技を指導できる常勤の指導者

(4) 劇場、音楽堂等の規模や文化芸術分野に応じ、必要となる専門人材に違いがあると考えますか。具体的にお答えください。

規模や分野により必然的に求められる専門人材は違ってくると思われませんが、それ以外にも、劇場、音楽堂等の目指すものや、地域における役割をどう捉えるのかで違いが出るのかもしれない。

自明の理ではありますが、短期的な劇場運営と長期的な地域振興・人材育成では明らかに必要とされる人材とコストバランスが異なります。当劇場に於ける小中高生への教育普及の公演は、収入が掛かるコストの半分程度というのが実態です。

(5) 現在、貴劇場において、専門人材の養成に関し、取り組んでいることがあれば、記載してください。貴劇場のスタッフの養成だけでなく、外部(他

の劇場のスタッフ等) に対する研修等を行っている場合には、それについても記載してください。

体系的、継続的に実施はしていない。通常は、OJTで先輩が後輩を指導する形態で行っている。

前年度、舞台スタッフを劇団わらび座に1年間派遣し研修させた実績はありません。

(6) 専門的な能力を有する人材の養成及び確保(配置)について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

地域振興や人材育成という観点からも、専門的な人材の養成及び確保の重要性は強く感じるが、将来への地域社会への投資としての資金投入を行う財力を持ち合わせていないのが現状です。

また、地方においては特にそのコストが高くつくと考えられます。

都道府県、もしくは地域単位で必要な人材を想定し、その人材の育成・確保する取り組みが必要であると感じます。

### 【大学等の教育機関との連携関連】

(1) 貴劇場の運営に当たって、大学等の教育機関と連携している取組はありますか。ある場合にはその状況及び課題、今後の進め方等(メリット・デメリットを含む)について記載してください。

愛媛県には、音楽、芸術等の専門学科を持つ大学は無く、専門的能力を有する者を養成する目的で連携する取り組みは現在ありません。

(2) このほか、大学等の教育機関との連携に係る取組で、今後新たに考えられるものがあれば記載してください。

上述のように、音楽、芸術等の専門能力を有する者の教育は、県外等の遠隔地の大学等の教育機関に求めるしかないが、具現化するための情報提供や指導の必要性を感じます。

この地域で出来る事として、地元の大学の経済学部、経営学部との連携を図り、経営の安定化や集客力向上の取り組みを目指していきたいと考えます。

(3) 大学の教育機関との連携について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

大学等の教育機関との連携を図る意味で、劇場、音楽堂等の活性化を目的とし

た、産学官の連携、インターンシップの推進についての指導を望みます。

また、ある一定レベルのエリア内には、必ずそのような機能を持つ大学等が存在してほしいと考えます。

### 3. 教育普及活動（鑑賞者拡大、地域住民の参画、事業の広報、子どもへの機会の提供等）の促進について

(1) 劇場、音楽堂等において行われる実演芸術に対する国民の関心と理解を深めるため、教育普及活動（鑑賞者拡大、地域住民の参画、事業の広報、子どもへの機会の提供等）の実施に努めることが重要ですが、貴劇場において、教育普及活動について取り組んでいることはありますか。また、今後、どのような教育普及活動が必要だと考えますか。

教育普及活動は当劇場の最重要課題であり、これまで小中高校生の観劇はもとより、小学生の演劇体験学習やバックステージツアー、高校演劇部を対象としたワークショップなど数多くの取り組みを行ってきました。

平成21年6月に、地元経済界や教育界の皆様を中心に立ち上げていただいた「坊っちゃん劇場・子ども舞台芸術体験サポートシステム後援会」は観劇料、交通費などの補助が具体化され、21年度5千人、22年度12千人、23年度は16千人の子供たちがこのシステムを活用して観劇しています。

ミュージカルという舞台芸術を通して、次世代を担う子供達の文化力を引き出し、高め、豊かな人間性と創造性を育むことこそ、劇場の重要なミッションであり、多くの皆様のお力によりこのシステムがより機能し更に多くの子供たちに機会を提供していきたいと考えます。

(2) 貴劇場において、教育普及活動を行うに当たっての課題があれば、記載してください。

上記、「坊っちゃん劇場・子ども舞台芸術体験サポートシステム後援会」の活用により、毎年子供たちの観劇は増加し、去年は24千人が観劇いただきました。

ただ、企業や団体、個人から現状2千万円近い協賛金をお預かりしておりますが、継続的な支援はなかなか難しく漸減状況にあります。

弊社関係企業をはじめとする、各種団体や個人の皆様が、このままいつまで支援を続けていただけるのか不安に感じております。

公共性の強い事業だけに地域の市町の積極的な支援を望みたいと考えます。

(3) 劇場、音楽堂等は、個人の年齢や性別、個人を取り巻く社会的状況等に関係なく、全ての国民に開かれた場であることが重要ですが、貴劇場を通して、障害のある方やご高齢の方などに文化芸術に親しむ機会を提供する工夫をしている場合には、記載してください。（例：各施設での訪問コンサートの開催など）

劇場には車いす専用席や車いす用リフトを備え、身障者の方が来られた際は、当館職員が着席まで誘導しております。

また、年間に3回、各1か月程の期間を「福祉企画」とし廉価な価格設定でご案内しております。（年間約3～4000人の利用）

また、劇場のもう一つの劇団、中高年劇団「完熟一期座」は、通常公演以外に、痴ほう症の家族を持つ一家の物語、福祉劇「みんな誰かの宝物」で福祉施設を巡回公演しております。

また、定期的に病院や老人施設でのミニコンサートなども開催しております。

**（４）教育普及活動について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。**

上記（２）で述べたように、「坊っちゃん劇場・子ども舞台芸術体験サポートシステム後援会」に対する年間2,000万円近い協賛のうち市町村会からの支援は200万円のみとなっております。殆どが市町の子供たちに還元される浄財であり、学校教育における実演芸術の鑑賞に必要な施策として、もう少し各市町から協賛を抛出願いたいと考えております。

#### **4. 複数の劇場、音楽堂等の連携（共同制作、巡回公演、定期的情報交換等）の促進について**

（１）劇場、音楽堂等が他の劇場、音楽堂等や文化芸術団体等とネットワークを構築し、これを活用することは、劇場、音楽堂等の運営に当たり、多様な活動を行うための有効な方策のひとつですが、貴劇場において、他の劇場、音楽堂等や実演芸術団体等とのネットワークや連携に係る取組（フランチャイズ、レジデンス、芸術提携等）がありますか。ある場合にはその状況及び課題、今後の進め方等（メリット・デメリットを含む）について記載してください。また、ない場合には、他の劇場、音楽堂等や実演芸術団体等とネットワークの構築や連携に係る取組を実施することにメリットを感じるかなどのお考えを記載してください。

50歳以上の中高年で構成する「完熟一期座」は、これまで毎年一作、周辺市町の偉人や伝説を題材に作品を作り、現地の文化ホール等との連携で現地での上演を行っていますが、ネットワークや連携といった強い結びつきにはなっていません。

各地の文化ホール等も専門スタッフは殆ど配置されておらず、当方公演のフォローに入っただけ程度であります。

当方が、この地の中核劇場として専門スタッフを配置・育成し各ホールの指導的立場になることの必要性を感じているところでもあります。

(2) 貴劇場において、巡回公演や共同公演を行っていますか。行っている場合にはその状況及び課題、今後の進め方等（メリット・デメリットを含む）を記載してください。

これまでに、高知と広島にて2作品の出張公演を行った。

第3作ミュージカル「龍馬！」高知公演20回公演（16,000人）

第4作ミュージカル「鶴姫伝説」広島公演10回公演（7,000人）

今期ロシア公演、来季高松公演を予定。

第6作ミュージカル「誓いのコイン」のロシア公演4回予定

モスクワ1st、オレンブルグ3st

第7作ミュージカル「平賀源内（仮称）」高松公演20回予定（平成25年9月）

(3) 貴劇場において、巡回公演や共同公演を行うに当たり、支障となっている事項を記載してください。

これまで行ってきた、高知公演（16,000人）、広島公演（7,000人）は、両公演とも地元の経済団体等の支援を頂いて実施し、地域の子供たちも多数観劇し、地元と一体となった事業推進は大変意義深いものではありましたが、巡回公演に係る経費が嵩み、事業としては成り立ち難いものでありました。

今期のロシア公演も日本とロシアの有用な国際的文化交流であり、ロシア州政府からの正式な招聘はあまり例がなく、当劇場としても深い意義を持って実施することとしましたが、自己負担額が多く、短期的な劇場経営の観点からは負担となっております。

(4) 国立劇場又は新国立劇場との連携について、具体的な提案があれば記載してください。（例：企画制作のノウハウ、舞台技術等）

これまで国立劇場との接点は全くなく、また知識・情報不足で特に提案できることはありません。

(5) 他の劇場、音楽堂等、実演芸術団体等との連携（共同制作、巡回公演、定期的情報交換等）の促進について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

連携する為の前段として、事業に取り組む事業者間の情報収集・交換、相互理解・啓発を促進することを目的とした組織の必要性を感じております。

公立ホール間にはあるのかもしれませんが。

## 5. 調査研究機能の向上について

(1) 貴劇場において、劇場、音楽堂等のより円滑な運営、機能の向上等に関し、どのような調査研究を行っていますか。また、今後、どのような調査研究を行うべきと考えますか。(例：今までに実施された公演の調査分析等)

観劇いただいたお客様にはアンケートをお願いしています。

ファンクラブのメンバーによる定性分析を行っています。

多方面で活躍されている女性に定期的に集まっていただき「坊っちゃん劇場を支える女性の会」を開催し、女性の感性で、舞台の内容、運営方法、サービス等について分析を頂いています。

「坊っちゃん劇場・子ども舞台芸術体験サポートシステム後援会」の役員会を開催し、劇場運営や教育普及活動についての意見を頂いています。

(2) 調査研究機能の向上について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

行政は独自にもしくは劇場と協力して、観劇・鑑賞者や地域住民に対する定期的な意識調査・研究を行い、劇場が地域の拠点として健全に育成されているかどうかを調査しフィードバックすると同時に今後の方針について協議を行っていただきたいと考えます。

## 6. 劇場、音楽堂等の経営の安定化について

(1) 貴劇場において、劇場、音楽堂等の安定的な経営を行うために、どのような取組を行っていますか。

劇場が開業してから6年余りの間に、劇場のもつ意義や価値についての理解は大幅に深まり、この地域における劇場の位置づけは随分変わってまいりました。

そしてこの劇場を支えていただく人々の輪が確実に広がっていることも実感しております。

今後更に、地域に根差し、地域の皆様とともに劇場を支え、ともに地域文化芸術の振興を図り、教育普及を進行する目的で、劇場の運営形態を変革し、広く出資企業を募ることにより、地域ぐるみで運営する劇場を目指しております。

(2) 劇場、音楽堂等の経営の安定化について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

劇場、音楽堂の経営は、直接経営に携わる関係者だけの課題ではなく、それを支える地域の行政や企業、住民の積極的な取り組みなしには成り立っていきませ

ん。

地域の企業や住民が支援し易くなる仕組み作りを求めたいと考えます。(出資や寄付)

設備産業であり収益性の低い劇場経営を鑑み、また公共性の強い施設としての観点から、固定資産税等の免除、減免を検討いただければ幸いです。

## 7. 劇場、音楽堂等の安全管理の向上について

(1) 貴劇場において、劇場、音楽堂等の安全管理について、どのような取組をしていますか。(例：定期的な避難訓練の実施、危機管理マニュアルの作成等) また、安全管理についてどのような点が不十分だと考えますか。

防火管理者を中心に劇場独自の非常時対応マニュアルを作成、年2回防災訓練を実施しています。また、自衛消防組織を設置し、日頃より災害時の非難ルート、消火設備の点検等を行っています。

考えられる安全管理については取り組んでおります。

(2) 劇場、音楽堂等の安全管理の向上について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

特にありません。

## 8. 要望や苦情等への対応向上について

(1) 貴劇場において、劇場、音楽堂等の運営に関する要望や苦情対応のために取り組んでいることはありますか。

通常アンケートによる情報収集とその対応です。

(2) 要望や苦情対応への対応向上について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

特筆すべきことはありません。

以上